HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」136号
Issue Date	2010-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66247
Type	journal
File Information	yuin136.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ISSN 0917-3684

Hokkaido University Library Bulletin No.136 Nov.2010

楡蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

目　次

5周年を迎えたHUSCAP
学術システム課……1
鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞関連論文をHUSCAPから読むことができます……8
学術成果コレクション（HUSCAP）収録文献（平成22年6月1日～平成22年9月30日）……8
お知らせ
・来館日誌（平成22年7月～平成22年9月）…9
・2010北海道大学オープンキャンパスを実施しました……9
・企画展示「北方古地図展」（第二期：北方図の変遷）開催中……10
・附属図書館（本館）の再生事業について……12
・平成22年度附属図書館インターンシップ（図書館実習）について……15
教員著作寄贈図書……15
北京大学図書館への本学教員著作寄贈……16
会議（平成22年6月29日～平成22年9月30日）…17
人事往来……18
図書館日誌(平成22年7月1日～平成22年9月30日) 19

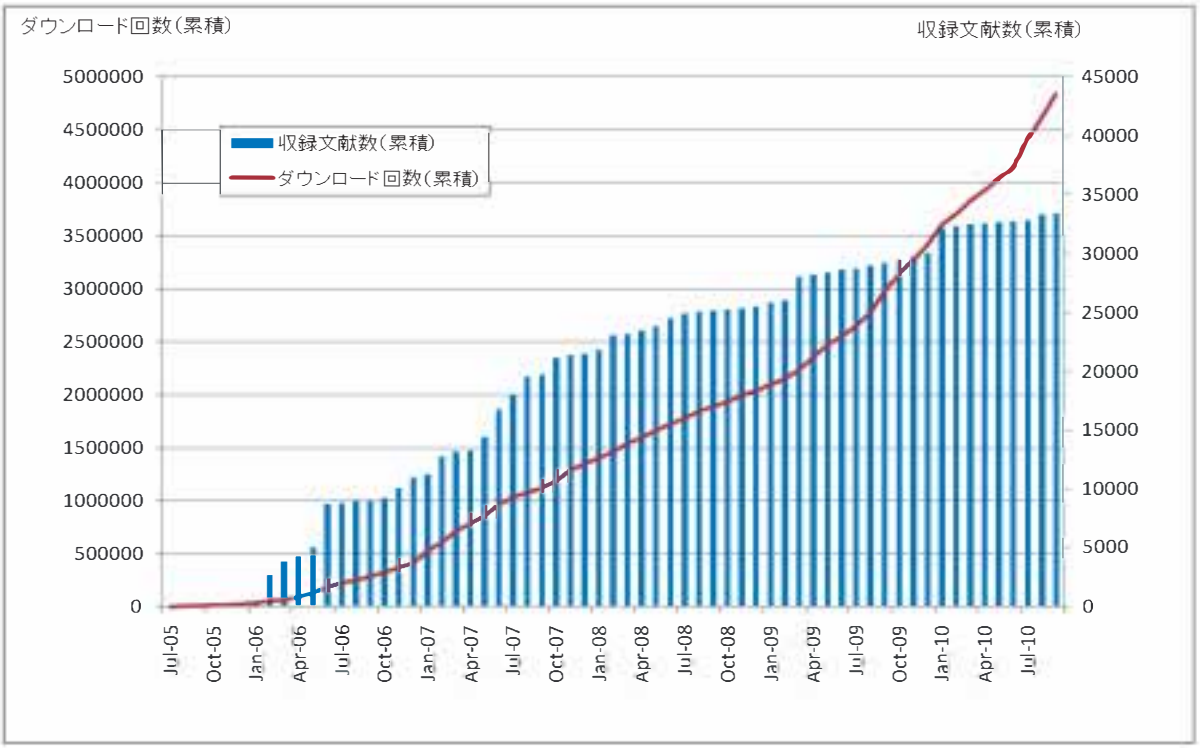
5周年を迎えたHUSCAP

学術システム課

北海道大学学術成果コレクションHUSCAPは，平成17年7月20日の設置から数えて5周年を迎えました。

HUSCAPとは，本学研究者による学術論文など約3万件以上をインターネットを介して無料公開しているもので，誰でもいつでも本学の学術成果に接することができる電子書庫であり，本学の研究活動を世界に発信するプラットフォームです。研究成果の本文までを無料公開することで，①より多くの読者を獲得する，②大学の資料として大切に保存し後世に継承する等のメリットがあります。

先生方から多くの支援,配慮をいただき,HUSCAPは右肩上がりの成長を続けており，設置当初30件だった公開文献数は，いまや3万3千件を超えています。また，国内はもとより海外からの利用も増加の一途を辿っており，文献のダウンロード回数（文献閲覧数）は通算で512万回以



上にのぼっています。

これらの成果を確認するとともに，今後のさらなる発展を目指して,附属図書館では,HUSCAP公開５周年記念講演会を10月21日（木）10:00～12:10，北海道大学学術交流会館小講堂にて開催しました。この講演会は，「国立大学フェスタ」と「オープンアクセスウィーク」のイベントとして位置付けられ，学内外から58名の参加がありました。

「国立大学フェスタ」とは，国立大学の教育研究活動を広く社会に発信することにより，国立大学がより社会に開かれた存在となることを目指しているもので，本学では10月～11月に23のイベントを開催しています。

「オープンアクセスウィーク」とは，HUSCAP等，インターネットを通じて研究成果を無料で公開し，世界中の人々が対価なく享受できるようにする「オープンアクセス」の意義を広めるための国際的な促進週間です。オープンアクセスウィークには毎年，世界各国の大学図書館や研究機関が様々なイベントや広報活動を行っています。2010年のオープンアクセスウィーク10月18日（月）～24日（日）に，附属図書館では，講演会を開催するとともに，ポスターや広報物の設置，期間中にご著作をHUSCAPにお送りくださった研究者にHUSCAPバッチをプレゼントするキャンペーンを行いました。

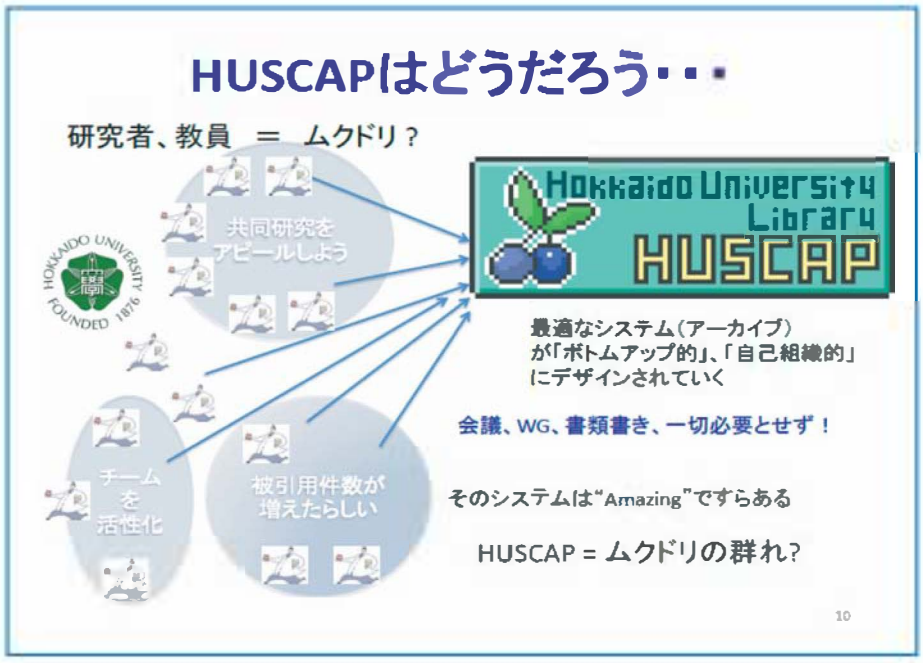
さて，講演会の内容です。二部構成で，前半は，「HUSCAPと私の研究」をテーマに，３名の北大研究者から自身の研究内容と関連してHUSCAPを通じた学術成果の公開事例を紹介いただきました。後半は，学外から，情報倫理の専門家であり学術情報のオープン化を推進している明治大学A. A.アダムス先生をお招きして，「Maximizing the impact of your research」と題し，デジタル時代の論文発表や著者の権利について講演いただきました。本稿では，各講演の内容を紹介します。

1．井上純一先生（情報科学研究科）
「局所的行動規範(研究者)が創る大域的システム(HUSCAP)の最適デザイン」

2005年頃，自身の研究について，「産業につながる，役立つ研究」をしているとはっきり言えないことに対する葛藤と模索があり，何か別な形で社会に貢献できることはないかと考えていた。そこへ,図書館からHUSCAPのアイデアを相談され,日々の活動で生まれるアウトプット（講義ノートや論文等）を可能な限り公開する窓口になってもらえそうだと思った。図書館は教員が利用してくれるか心配していたが，システムがよければ皆が使うはずで，うまく軌道に乗れば，教員「個々の局所的な努力によってシステム全体が自己組織的にデザインされる」はずだと感じた。５年後の今日，講演会が開催され自分がここで話していること自体，成功している証拠だ。

「個々の局所的な努力によってシステム全体が自己組織的にデザインされる」というのは，我々の研究グループが目指しているもので，脳の神経細胞や，デジタル画像の画素，群れの中の一羽の鳥等，個々の要素はシンプルであるのに，たくさん集めると好ましいシステムが構築される可能性がある。例えば，ムクドリの群れが集団で飛ぶ様子は，見ていて飽きない形状の変化があるが，どのように群れが形成されるのか，その中の１羽１羽はどのようなルールで行動しているのか，個々のムクドリは賢いとは思えないが,集団のふるまいに関して疑問が尽きず,自然界は「Amazing」であるとしか言いようがない。

HUSCAPもまさに，ボトムアップ的，自己組織的にデザインされてきている。人間はムクドリより賢いはずである。今後の我々個々の少ない努力で，HUSCAPはより素晴らしいものに進化・発展していくことが期待できる。



井上純一先生　発表スライドより

2．星野洋一郎先生（北方生物圏フィールド科学センター）「HUSCAPと私の研究」

私は果実のハスカップ(Haskaop)を研究している。ハスカップはアイヌ語に由来し，has（枝条）ka（の上）o（に沢山なる）P（もの）という意味だ。１m50cmほどの樹で，６月に黄色の花を咲かせ，７月に甘酸っぱい実がたわわに実る。樹によって実の風味が異なり，柑橘系の香りがするものもあれば，はきだしてしまうほど苦いものもある。北大では農場でハスカップを栽培しており，農学部の実習にも使っている。

ハスカップの自生地は北半球北部の方で，世界的な自生地の研究発表がされているが，その中で日本の自生地は明らかになっていなかったため，道内を視察し，釧路湿原，霧多布湿原，大雪山，美幌峠等で自生していることが分かった。また，遺伝的な国内の分布も明らかになってきた。遺伝的な観点から，優良品種（おいしくて，収穫に適する皮のしっかりした品種）を増やす研究も行っている。こういったハスカップの研究成果をHUSCAPに登録している。

私の思いは，ハスカップという果実の存在とおいしさを「もっとたくさんの人に届けたい」ということだ。この思いは，HUSCAPと同じではないか。ハスカップをアピールしてHUSCAPを広めよう。

星野洋一郎先生　発表スライドより

3．栃内新先生（理学研究院）
「HUSCAPは北大の研究者に何をもたらしてくれるか」

2年前にHUSCAPに自身の博士論文を収録した。収録前は，電子ファイルがないために，数年に1回コピー依頼がくるたびにコピーしなければならなかったが,HUSCAPに掲載することで便利になった上，数ヶ月に1回のダウンロードがあり，手軽に読めるようになったことで，著者にコピーを依頼するまでもないかと思っていた読者に読んでもらえている感がある。また，「科学技術コミュニケーション」（2010年2月）に書いた，理系大学院生向けのエッセイが，びっくりするほど多くダウンロードされている。HUSCAPの「よく読まれる論文」を見ると，井上純一先生の講義ノートは，ずっとダウンロード回数1位の座にあるが，こういった学術雑誌掲載論文以外の著作の需要が多い事実は，HUSCAPを運営して初めて分かったことだと思う。これからもどんどん試行錯誤してほしい。

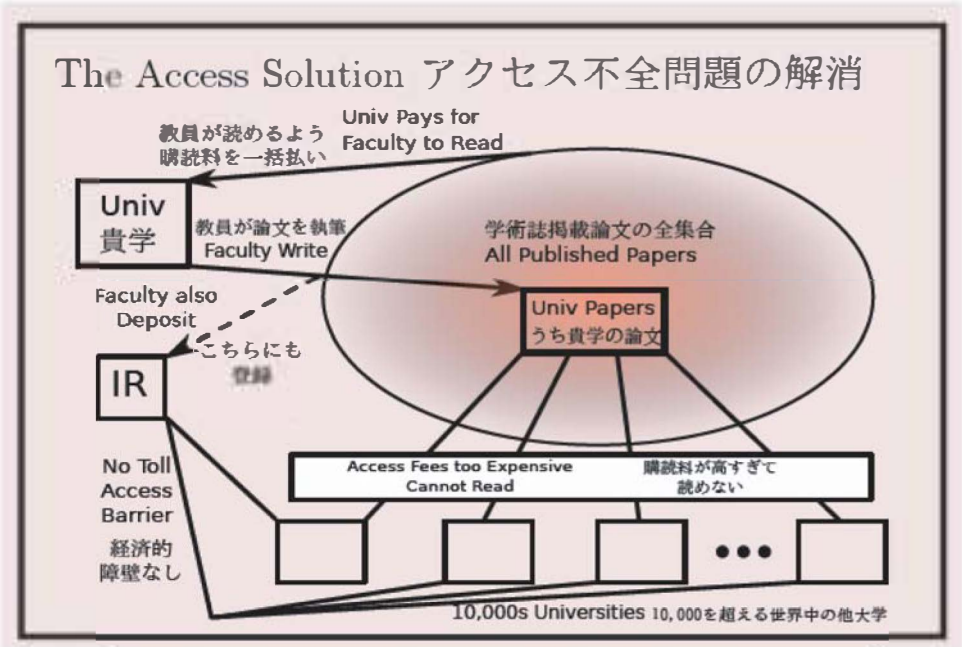
HUSCAPは北大の研究者の味方であり，様々な利点があるが，退職した後も研究成果を公開し続けることができる点が魅力的だ。この点で，HUSCAPは，整理された標本箱に似ていると思う。研究者の個々の研究成果を虫に例えると，単独では地球環境の中での存在意義もよく分からない。また，野原で死に絶えたら，他の動物に食べられるか分解して消え去ってしまうが，標本にされ，永遠に公開され続ければ，未来の科学者の研究材料として永遠の命を得る。HUSCAPの未来は，北大の学術情報を統合してショウケース化する，北海道大学学術統合コレクションとなることを期待する。

栃内新先生　発表スライドより

4．Andrew A. Adams 先生（明治大学）
「Maximizing the impact of your research」

研究者は何のために論文を執筆しているのか，せっかく書いた論文はどうなるのか，そうした中で学術研究活動上のキモはどこにあるのか，を考えた時，問題の核心は査読論文へのアクセスである。

現在の学術情報流通は，研究者が学術雑誌に論文を執筆し，機関が学術雑誌の購読料を一括払いして成り立っているが，購読料が高すぎるために，１万を超える世界中の他大学の研究者すべてに行きわたっていない状況である。このアクセス不全は，研究者が，学術雑誌に論文を投稿すると同時に，機関リポジトリにも登録することで解消することができる。潜在的な読者がいたとしてもアクセスできない限りあなたの論文を読むことができないし，論文が読まれない限り引用されることもないのだ。レイアウトやファイル形式等にこだわるべきではなく，著作権や出版社の利益は別問題である。自著へのアクセスを万人に与えることは，極めて低コストで実現可能であるのみならず，研究者としての職業倫理上，至上の責務と考えるべきだ。



Andrew A. Adams先生　発表スライドより

アダムス先生の講演は，野坂政司先生（情報基盤センター）に座長を務めていただき，英語で行われました。講演資料は日本語併記し，質疑応答は，野坂先生による通訳のサポートがありました。

アダムス先生，井上先生，星野先生，栃内先生，野坂先生，誠にありがとうございました。

なお，講演資料はすべて，HUSCAPで公開しています。

（http://eprints.lib.hokudai.ac.jp）

講演会の様子

楡　　蔭(北大図書館報)

鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞関連論文を HUSCAPから読むことができます

鈴木章（すずき・あきら）本学名誉教授の，2010年ノーベル化学賞受賞が決まりました。
この原著論文をHUSCAPからどなたでも読むことができます。

（1）鈴木・宮浦カップリング（Suzuki-Miyaura coupling）論文：
Miyaura, Norio; Yamada, Kinji ; Suzuki, Akira
A new stereospecific cross-coupling by the palladium-catalyzed reaction of 1-alkenylboranes with 1-alkenyl or 1-alkynyl halides. *Tetrahedron Letters.* 1979, vol. 20, issue. 36, pp. 3437-3440.
こちらから読むことができます　→　http://hdl.handle.net/2115/44006

（2）鈴木・宮浦カップリング（Suzuki-Miyaura coupling）総説論文：
Miyaura, Norio; Suzuki, Akira
Palladium-Catalyzed Cross-Coupling Reactions of Organoboron Compounds. *Chemical reviews.* 1995, vol. 95, issue. 7, pp. 2457-2483.
こちらから読むことができます　→　http://hdl.handle.net/2115/44007

HUSCAPに収録後10日間で，（1）は656回，（2）は301回，ダウンロードされています。

学術成果コレクション(HUSCAP)収録文献

（平成22年6月1日～平成22年9月30日）

新たに，188名の研究者の方々からご提供いただいた780件の文献を公開しました。
また，10研究科等の16タイトルの紀要（文献506件）も公開しました。
HUSCAPについて詳しくは，下記URLをご覧ください。
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/

附属図書館では，本学の研究者が執筆した論文や学会発表資料等の文献を収集し，HUSCAPにて保存・公開しています。
新たに論文等を発表された際は，repo@lib.hokudai.ac.jpへファイルをお送りください。
ご協力よろしくお願いいたします。

お 知 ら せ

来 館 日 誌

（平成22年７月～９月）

No.	来　館　者	来 館 日	時　間	人数	備　考
1	山口大学図書館	８月11日(水)	９:00－９:40	2	図書館見学
2	新潟大学附属図書館竹谷課長他	９月７日(火)	16:00－17:00	2	北方資料室見学
3	市立函館高校	９月27日(月)	13:25－15:15	83	図書館見学
	計			87	

2010北海道大学オープンキャンパスを実施しました

平成22年８月１日（日）に「2010北海道大学オープンキャンパス」自由参加プログラムとして，附属図書館では館内ツアー等を実施しました。

本館では，図書館蔵書目録や国立国会図書館の雑誌記事索引データベースで図書館が設定したキーワードを検索し，図書や雑誌に辿り着くまでを体験しました。また，希望者には館内ツアーが催され，本学の貴重な資料を見学していただきました。参加者は昨年度より24名増えました。

北図書館では，開架閲覧室，多数の学生用パソコンや映像資料を備えているマルチメディア公開利用室等を案内するツアーを実施しました。館内ツアー及び自由見学を合わせて，参加者は昨年度より５名増えました。

各館の実施内容は次のとおりです。

【本館】
◆内　　容　・検索体験（20分）　・館内ツアー（10分）
◆時　　間　10:00から16:30まで，ほぼ１時間ごと，合計８回実施
◆配布資料　「蔵書検索の使い方」
◆参加者数　166名（各回合計，その他自由見学者は72名）

【北図書館】
◆内　　容　・館内ツアー（15分）
◆時　　間　10:00から17:00まで，合計７回実施
◆配布資料　「北大図書館利用案内」「北図書館パンフレット」
◆参加者数　13名（各回合計，その他自由見学者は123名）

（利用支援課）

企画展示「北方古地図展」（第二期）開催中

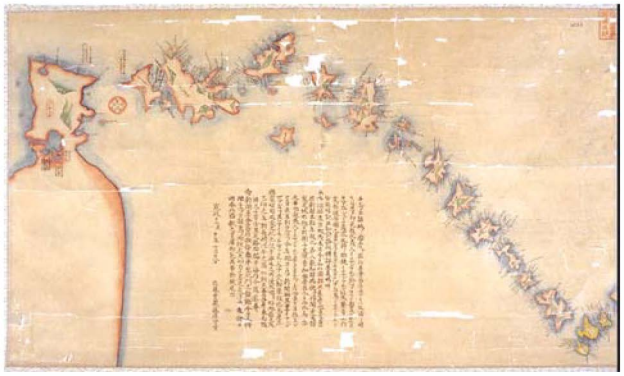
附属図書館４階北方資料室入口掲示コーナーにおいて，企画展示「北方古地図展」第二期『北方図の変遷』を開催しています。

第二期は，第一期『北海道図の変遷』に続き，蝦夷地からさらにカラフト島や千島の島々にまで調査をすすめてきた歴史を北方図を通じて概観し紹介します。

江戸幕府の役人であり探検家でもある近藤重蔵が蝦夷・南カラフト・千島を踏査して著した『蝦夷地図式』（一）（二），北方探検家として知られる間宮林蔵が大陸に渡った際に作成した『黒龍江中洲並天度』，松浦武四郎が開拓使に提出した彼の北方探検総集編ともいうべき『北海道国郡図』など，北海道とその北辺地域の歴史を伝える地図をパネルで展示しています。

第二期 ： 『北方図の変遷』　　展示期間 ： 平成22年９月１日～12月27日

近藤重蔵『蝦夷地図式』（二）「蝦夷地」（1802年）



近藤重蔵『蝦夷地図式』（一）「チュプカ諸島」（1800年）

間宮林蔵『黒龍江中洲幷天度』（1810年）

松浦武四郎『北海道国郡図』（1869年）

第二期「北方図の変遷」展示資料の紹介

展示パネル

	図 名 （ 著 編 者 名 ）	成 立 年
1	日本およびエゾ図（ヤンソン：J. Janszonius）	1658年
2	三国通覧輿地路程全図（林子平）	天明 5 （1785）
3	蝦夷輿地之全図	天明 6 （1786）
4	蝦夷地図式（一）「チュプカ諸島図」（近藤重蔵）	寛政12（1800）
5	蝦夷地図式（二）「蝦夷地図」（近藤重蔵）	享和 2 （1802）
6	黒龍江中洲幷天度（間宮林蔵）	文化 7 （1810）頃
7	満州魯西亜彊界図	嘉永 6 （1853）
8	蝦夷諸島切壌全図（沖正蔵）	安政 3 （1856）
9	官板実測日本地図［蝦夷諸島］	慶応元（1865）
10	北海道国郡図（松浦武四郎）	明治 2 （1869）

展示ケース

	テーマ	資 料 名 （ 著 編 者 名 ）	成 立 年
ケース1	林 子平	朝鮮国全図	天明 5 （1785）
		琉球国全図	
		三国通覧図説	
ケース2	間宮林蔵	東韃紀行	文化 7 （1810）序
		ヤエンコロアイヌ文書	乾隆40（1775）以降

※所蔵はすべて本館・北方資料室です。

展示風景（第二期）

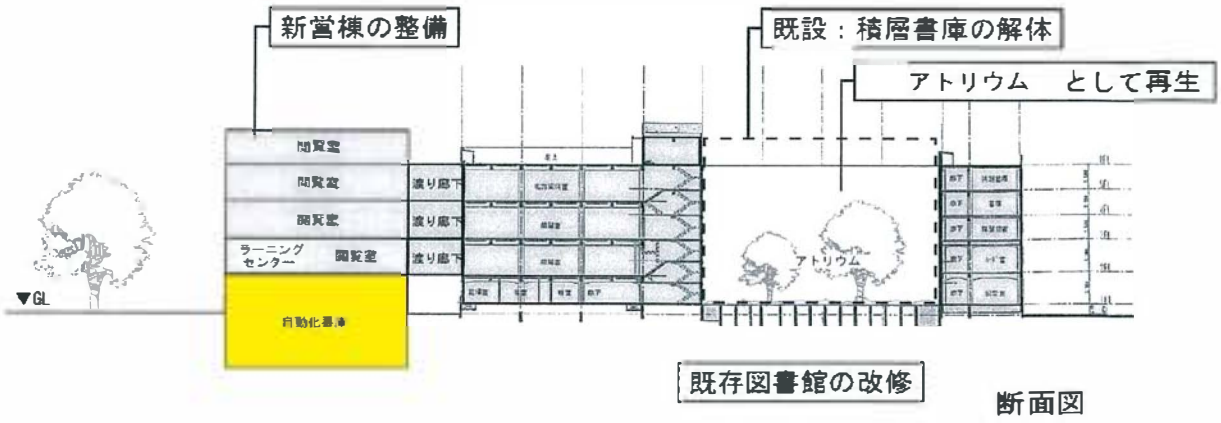
（北方資料室）

楡　　蔭(北大図書館報)

附属図書館（本館）の再生事業について

1．はじめに

附属図書館本館は昭和40年６月に現在の図書館棟の新営工事が完了し，その後昭和59年に増築しています。建築後，既に45年が経過し，建物の耐震強度や老朽化の問題および中央積層書庫が建築基準法上不適合であることなどから今回の再生事業が計画されました。



附属図書館再生事業の概要（断面図）

2．再生事業（新営棟の建設，既存棟改修）の内容・工期

①　新営棟建設（工期：平成22年７月～平成23年３月予定）

新営棟は既存棟の南側に建設し，地下２階地上５階の建物で，地下２階から地上１階は自動化書庫[1]（収容能力52万冊）を設置します。地上２階から５階は開架閲覧室です。また，既存棟とは渡り廊下で往来出来るようになります。

②　老朽改修（工期：平成22年11月～平成24年３月予定）

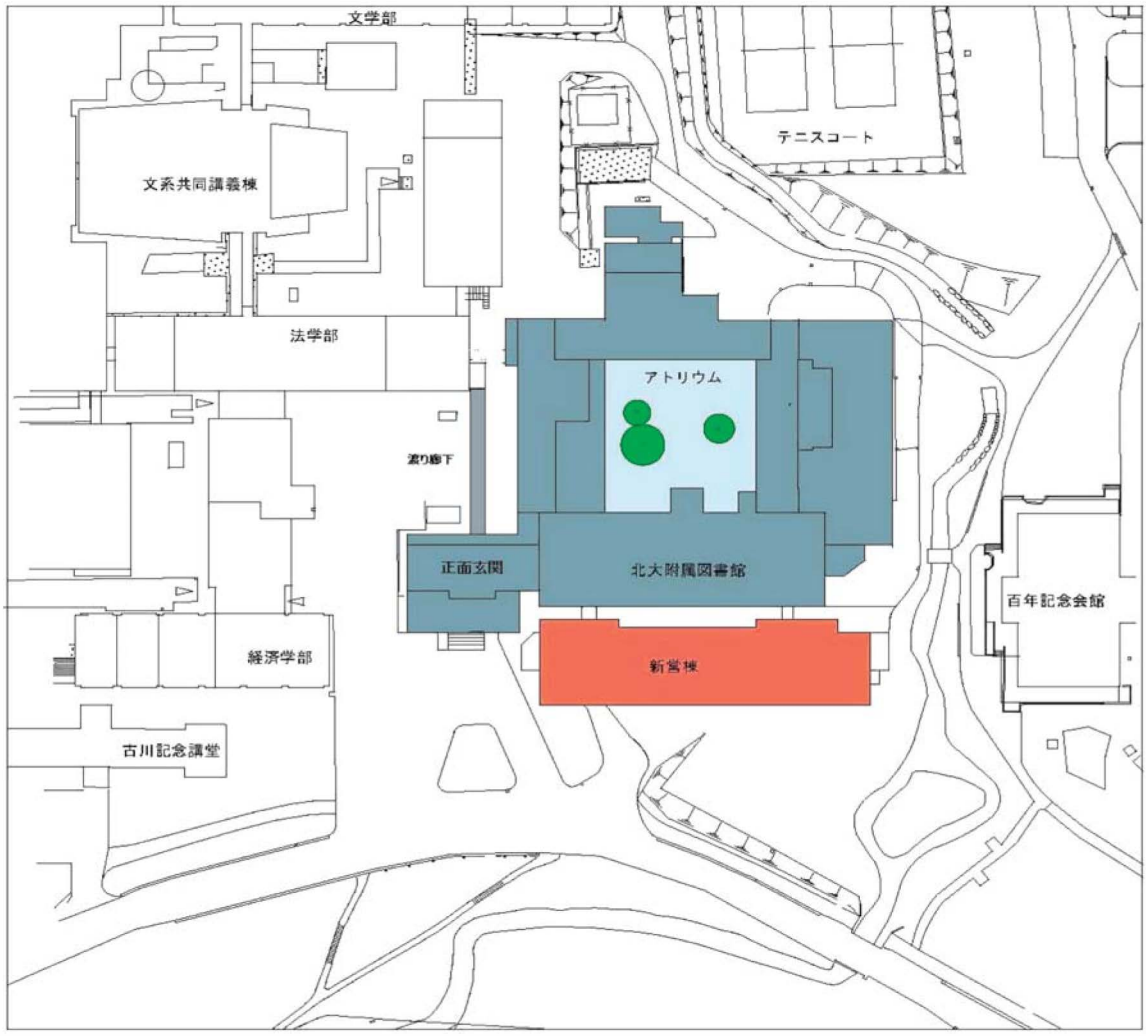
既存棟の老朽改修は今年度西棟，北棟，玄関棟を改修します。平成23年度は南棟，東棟を改修します。この改修により電気設備や機械設備が更新されます。また照明や壁等もきれいになりますので明るく快適な環境になります。

---

[1] 自動化書庫とは膨大な図書をコンテナボックスで効率的に保管し，館内の蔵書検索端末の検索結果から指示することにより自動的にカウンターまでその図書を搬送するシステム。利用者は請求票等に記入することなくその図書を手に取ることが可能。

③　中央積層書庫解体（工期：平成24年度予定）

中央にある６層の積層書庫は平成24年度に撤去する予定です。撤去後はアトリウムとして利用者の憩いの場とする計画になっています。



附属図書館再生事業の概要（上から見た図）

３．再生事業の効果

①　新営棟について

新営棟２階にはパソコン等IT環境の高度化を図ったコーナー，参考閲覧室，講習会等を開催できる情報リテラシールームからなるラーニングセンターを設置します。３階から５階は開架閲覧室として快適な学習環境を提供します。その他，次のとおり学習環境が向上します。

・夜間や土日に利用ができなかった参考資料や北方資料（貴重資料を除く）が利用可能に。
・入退館ゲートが一箇所になり，利用者動線が簡易に。
・閲覧座席数の増加および個席の設置。
・冷暖房の完備。
・きれいなトイレ，洗面室。

② 既存棟について

既存棟はほとんどが書庫になり収容可能冊数が増加します。また，今回の改修を機に資料の再配置を行います。このことにより分散されていた和書・洋書を一つにまとめる予定です。また，将来的には学部学生の書庫入庫を可能にする予定です。

新営棟完成予想図

4．おわりに

今回の工事により利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしています。また，今後も騒音や資料・施設の利用制限等があります。どうぞご理解ご協力をお願いいたします。

なお，改修関係のお知らせを図書館ホームページに随時掲載しますので，ぜひご覧ください。

（利用支援課）

平成22年度附属図書館インターンシップ(図書館実習)について

附属図書館では，他大学からの図書館実習の要請を受けてインターンシップ（図書館実習）を実施しています。今年度は８月５日（木）から13日（金）までの（土日を除く）７日間，北海道武蔵女子短期大学３名，藤女子大学３名計６名の実習生を受け入れ実施しました。

図書館実習は，実際の図書館業務を体験してもらい，職業意識を高めることを目的とし，短期間であってもほぼ全業務を体験できるようにプログラムを作成しています。実習を終えた学生からは，「利用者とのコミュニケーションをとる難しさや楽しさを知ることができた。」，「講義で学べない図書館業務や貴重な経験ができた。」などの感想が多く寄せられました。

オリエンテーションを受ける実習生

館内施設見学の様子

教員著作寄贈図書

（平成22年６月１日～平成22年９月30日）

寄贈者（敬称略）	所属部局	寄贈図書	所在
大学院文学研究科	大学院文学研究科	言語研究の諸相 : 研究の最前線 / 北海道大学大学院文学研究科言語情報学講座編. - 札幌 : 北海道大学出版会 , 2010.3	本館･開架･教員著作
大学院文学研究科北方研究教育センター	大学院文学研究科北方研究教育センター	知里真志保 : 人と学問 / 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター編著. - 札幌 : 北海道大学出版会 , 2010.3.	本館･開架･教員著作
佐々木憲介	経済学研究科	イギリス経済学における方法論の展開 : 演繹法と帰納法 / 只腰親和, 佐々木憲介編. - 京都 : 昭和堂 , 2010.6	本館･開架･教員著作
相川　弘明	理学研究院	Potential theory in Matsue / edited by Hiroaki Aikawa ... [et al.]. - Tokyo : Mathematical Society of Japan , c2006. - (Advanced studies in pure mathematics ; 44)	本館･開架･教員著作 北図書館･２階&３階･一般図書
松本　秀人	観光学高等研究センター	観光と図書館の融合 = The fusion of tourism and libraries / 松本秀人著. - 札幌 : 北海道大学観光学高等研究センター（発行）, 2010.7. - (CATS叢書 ; 第５号)	本館･開架･教員著作 北図書館･２階&３階･一般図書

ご恵贈誠にありがとうございました。

図書館では本学教員が執筆した図書を収集しています。新たに本を出版される際には，是非ご恵贈くださるようご協力お願い致します。また，北京大学図書館との相互交流および協力に関する覚書の締結に基づき，北京大学との交換用にもう１冊分，ご寄贈いただきますようご協力をお願い致します。とりまとめは，附属図書館で行います。

北京大学図書館への本学教員著作寄贈

北京大学との相互交流および協力に関する覚書の締結に基づき，北京大学との交換用に本学教員が執筆した図書をご寄贈いただきました。ここに，これまでご寄贈いただいた図書を報告します。

著者	著者所属（寄贈時）	寄贈図書
廣重　　力	名誉教授	多岐亡羊
井上　勝生	文学研究科	幕末・維新
坂井昭宏，柏葉武秀	文学研究科	現代倫理学
加藤　重広	文学研究科	みんなの日本語教室
加藤　重広	文学研究科	日本語修飾構造の語用論的研究
加藤　重広	文学研究科	日本語文法入門ハンドブック
加藤　重広	文学研究科	ことばの科学
加藤重広，吉田朋彦	文学研究科	日本語を知るための51題：日本語のこと，あなたはどれだけ知っていますか?
加藤重広著；町田健編	文学研究科	日本語学のしくみ
加藤重広著；町田健編	文学研究科	日本語語用論のしくみ
佐久間淳一 編	文学研究科	言語学基本問題集
佐久間淳一，加藤重広，町田　健	文学研究科	言語学入門：これから始める人のための入門書
川口　暁弘	文学研究科	明治憲法欽定史
高橋　芳郎	文学研究科	訳注「名公書判清明集」戸婚門：南宋代の民事的紛争と判決
石塚晴通教授退職記念会（代表，池田証壽）	文学研究科	日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開
人見　　剛	法学研究科	分権改革と自治体法理
眞壁　　仁	法学研究科	徳川後期の学問と政治：昌平坂学問所儒者と幕末外交変容
久保　淳司	経済学研究科	１株当り利益会計基準の研究
中村仁志夫［ほか］	医学部	医療系学生のための病理学
高橋是太郎	水産科学研究院	水産機能性脂質：給源・機能・利用
杉山　滋郎	理学研究院	北の科学者群像：「理学モノグラフ」1947-1950
石川　健三	理学研究院	解析力学入門
出村克彦，山本康貴，吉田謙太郎	農学研究院	農業環境の経済評価：多面的機能・環境勘定・エコロジー
駒込武，橋本伸也ほか９名	教育学研究院	帝国と学校
Marci-Boehncke Gudrun,Riecke Jörg	メディア・コミュニケーション研究院	″Von Mythen und Mären″：Mittelalterliche Kulturgeschichte im Spiegel einer Wissenschaftler-Biographie
遊川　和郎	メディア・コミュニケーション研究院	中国を知る：ビジネスのための新しい常識
眞﨑　睦子	メディア・コミュニケーション研究院	渡米移民の教育：栞で読む日本人移民社会
吉田　文和	公共政策学連携研究部	The cyclical economy of Japan
布施泉，野坂政司，岡部成玄	情報基盤センター	教科「情報」は難しい?：高等学校普通教科「情報」実施初年度アンケート報告
布施泉，野坂政司，岡部成玄	情報基盤センター	高等学校教科「情報」実施状況調査報告：(中間とりまとめ)
Takahiro Uesugi, Shieko Hareyama, Kiyonori Kawahatsu	高等教育機能開発総合センター	Proceedings of international symposium on winter sports sciences commemorating the 2007 FIS nordic ski WC in Sapporo
細川　敏幸	高等教育機能開発総合センター	科学のこころ ： この世は案外おもしろい
青木純一郎［ほか］	高等教育機能開発総合センター	高地トレーニング ： ガイドラインとそのスポーツ医科学的背景

会議（平成22年 6 月29日～平成22年 9 月30日）

【学　内】

◎図書館委員会

○第218回〈 7 月15日（木）〉

議題

1　平成21年度決算について
2　平成22年度予算について
3　平成23年度学術研究コンテンツ（電子ジャーナル等）の整備について
4　附属図書館の第一期中期目標・中期計画の結果及び評価について
5　平成22年度附属図書館事業計画（案）について
6　不用決定（書庫内重複図書）について
7　北海道大学附属図書館北方資料室管理運営内規の廃止について
8　電子ジャーナル・プロキシサーバ停止について

報告事項

1　各種委員会報告
1）学術成果発信小委員会
2）図書選定小委員会
2　附属図書館本館再生事業の進捗状況について
3　平成23年度概算要求事項（施設整備事業）について
4　平成23年度概算要求事項（特別経費（基盤的設備等整備分））について
5　平成21年度蔵書点検結果について
6　道内大学・公共図書館横断検索（Dopac）の提供終了について
7　国立情報学研究所の学術機関リポジトリ支援事業
平成22年度委託事業への応募結果について
8　国立情報学研究所の遡及入力事業
平成22年度委託事業への応募結果について
9　附属図書館年次統計について
10　北大時報から

○第219回〈 9 月27日（月）〉（持ち回り）

議題

1　北海道大学図書館委員会規程の一部改正について
2　組織の廃止，設置に伴う内規等の改正について

◎北図書館委員会

○第154回〈7月22日（木）〉

議題

1　平成21年度北図書館図書費決算（案）について

2　平成22年度北図書館図書費予算（案）について

3　平成22年度北図書館事業計画（案）について

4　平成22年度教員選定図書の選定について

報告事項

1　北図書館年次統計について

◎学術研究コンテンツ小委員会

○平成22年度第2回〈平成22年7月23日（金）〉（持ち回り）

◎学術成果発信小委員会

○平成22年度第2回〈7月27日（火）〉

◎点検評価小委員会

○平成22年度第1回〈6月29日（火）〉

◎図書選定小委員会

○平成22年度第2回〈7月29日（木）〉

【学外】

◎北海道地区大学図書館協議会

○第53回図書館職員研究集会〈8月20日（金）〉（天使大学）

○第60回総会〈8月27日（金）〉（北海道文教大学）

人事往来（平成22年7月1日～平成22年10月31日）

【平成22年10月1日付発令】

［配置換］

伊　藤　ますみ　附属図書館管理課課長補佐（附属図書館学術システム課課長補佐）

［採用］

笠　井　美由紀　附属図書館利用支援課（相互利用担当）

図書館日誌（平成22年７月１日～平成22年９月30日）

月日	項　　目
７月	
５－16	平成22年度大学図書館職員長期研修（筑波大学）（管理課，利用支援課）
15	第218回（平成22年度第１回）図書館委員会
22	第154回（平成22年度第１回）北図書館委員会
23	平成22年度第４回ホームページ委員会
	平成22年度第２回学術研究コンテンツ小委員会
	平成22年度第４回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会
27	平成22年度第２回学術成果発信小委員会
28	国立情報学研究所図書館連携作業部会（NII）（学術システム課）
	平成22年度第１回図書担当係長連絡会議
29	平成22年度第２回図書選定小委員会
８月	
1	2010北海道大学オープンキャンパス
3	新任者目録システム研修会（利用支援課）
５－13	図書館実習（北海道武蔵女子短期大学３名，藤女子大学３名）
16－20	本館蔵書点検（書庫和雑誌）
20	第53回北海道地区大学図書館職員研究集会（天使大学）
27	平成21年度第４回北海道地区大学図書館協議会幹事館会議（北海道文教大学）
	第60回北海道地区大学図書館協議会総会（北海道文教大学）
	平成22年度第５回ホームページ委員会

月日	項　　目
９月	
2	第41回国連寄託図書館年次会議（東京）（利用支援課）
６－10	漢籍整理長期研修（東京大学）（学術システム課）
8	HUSCAP説明会（教育学研究院）
９－10	北海道図書館大会（北海学園大学）
13－17	北図書館蔵書点検
14	HUSCAP説明会（保健科学研究院）
17	平成22年度第６回ホームページ委員会
21	平成22年度第２回楡蔭編集委員会
27	第219回（平成22年度第２回）図書館委員会
28	HUSCAP説明会（理学研究院）
28－30	高大連携授業聴講型公開講座学生への利用ガイダンス（北図書館）
30	HUSCAP説明会（歯学研究科）

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん)　**第136号**　平成22年11月30日発行

〈編　集〉　「楡蔭」編集委員会

〈発　行〉　北海道大学附属図書館　〒060-0808　札幌市北区北８条西５丁目
TEL ： 011-706-2967　FAX ： 011-747-2855　ホームページ　http://www.lib.hokudai.ac.jp